

[詩・短歌・俳句シリーズ]一行詩を作る①

年 組 氏名

一行詩とは、「一行」で書かれた詩のことです。

今回は初めてですから、【基本形()は()のようだ】の型にあてはめてみましょう。

1 次の()をうめて、一行詩を作りましょう。

①ひまわりは()のようだ。

②あかちゃんの手は()のようだ。

③()は空にクレヨンで描いた太い線のようだ。

2 自然の風物を題材して一行詩を作りましょう。

<花・太陽・空・雲・雨などの自然を取り上げ別の物にイメージする>

()は()のようだ。

3 身近なものを題材にしよう。

<道具・体の一部・生き物などを取り上げ、別の物にイメージする>

()は()のようだ。

(注)このシートには、解答・解説シートはありません。

[詩・短歌・俳句シリーズ]一行詩を作る②

年 組 氏名

前は、基本型【()は()のようだ】で作りましたが、
今回は、応用型【()、それは()だ】の型にあてはめて、一行詩を作りましょう。

〔例〕 海は地球の命だ。 → 海、それは地球の命だ。

1 次の一文を例にならって、一行詩にしましょう。

①人の心は表もあれば、裏もある。

→

②海は季節によって表情を変える。

→

③鳥はいつものんきに歌っている。

→

2 次のものを題にして、【()、それは()だ】の型の一行詩を作りましょう。

①鏡

②雨

③桜

[詩・短歌・俳句シリーズ]一行詩を作る③

年 組 氏名

今回は、応用型【()、それは()だ】に続き、例にならって応用型2【体言止め】の型にあてはめて、一行詩を作りましょう。

[例] 海、それは地球の命だ。→地球の命の海
(テーマを最後にもってきて体言止めにする)

1 次の一行詩を例にならって、別の一行詩にしましょう。

①夕焼け、何となく悲しいオレンジ色だ。

→

②雨、悲しみを洗い流してくれるもの。

→

2 次の言葉をテーマにして、一行詩を作りましょう。

①雷

②蝉の声

③こたつ

[詩・短歌・俳句シリーズ]一行詩を作る④

年 組 氏名

今回は、応用型【()、それは()だ】、応用型2【体言止め】のどちらかを選んで、「学校生活」についての一行詩を作りましょう。

- ①日常の学校生活を題材にしてみよう。
(各教科・宿題・クラブ・友だち・給食・当番活動など)

〔例〕 数学、それは何よりも緊張する時間

- ②学校行事を題材にしてみよう。
(入学式・卒業式・始業式・終業式・体育祭・文化祭・宿泊学習・修学旅行など)

〔例〕 ワクワク、ドキドキ、そしてため息が出た始業式でのクラス発表

[詩・短歌・俳句シリーズ]一行詩を作る⑤

年 組 氏名

今回は、応用型【()、それは()だ】、応用型2【体言止め】のどちらかを選んで、「食べ物」についての一行詩を作しましょう。

①「好きな食べ物」

〔例〕レーズンパン、それはパンの王様だ

②「嫌いな食べ物」

〔例〕給食で顔を見ない日はないにんじん

(注)このシートには、解答・解説シートはありません。

[詩・短歌・俳句シリーズ]俳句に親しもう①

年 組 氏名

俳句とは、五・七・五の三句十七音の定型詩です。
また、俳句には季語(季節を示す語)を詠み込むというルールがあります。

まずは俳句に詠み込まれた季語をとらえましょう。

次の①～⑥の俳句の季語を抜き出し、季節を答えなさい。

①柿食へば鐘が鳴るなり法隆寺 正岡子規

(季語: 季節:)

②赤い椿白い椿と落ちにけり 河東碧梧東

(季語: 季節:)

③流れゆく大根の葉の早さかな 高浜虚子

(季語: 季節:)

④眼にあてて海が透くなり桜貝 松本たかし

(季語: 季節:)

⑤こだま 餅ほととぎすして山時鳥ほしいまま 杉田久女

(季語: 季節:)

[詩・短歌・俳句シリーズ]俳句に親しむ①

年 組 氏名

次の①～⑥の俳句の季語を抜き出し、季節を答えなさい。

- ①柿食へば鐘が鳴るなり法隆寺 正岡子規 (季語:柿 季節:秋)
- ②赤い椿白い椿と落ちにけり 河東碧梧東 (季語:椿 季節:春)
- ③流れゆく大根の葉の早さかな 高浜虚子 (季語:大根 季節:冬)
- ④眼にあてて海が透くなり桜貝 松本たかし (季語:桜貝 季節:春)
- ⑤こだま 射して山ほととぎす時鳥ほしいまま 杉田久女 (季語:時鳥 季節:夏)

学習するみなさんへ：

俳句は、わずか十七音で情景や感情を詠み込まなければなりません。当然使える言葉も限られてきます。そのため、その言葉で季節を表す季語は、俳句において重要な役割を果たしています。

[詩・短歌・俳句シリーズ]俳句を作る②

年 組 氏名

前回は俳句の季語をとらえました。

今回は様々な季語そのものをとらえてみましょう。

次の季語を季節に分けて分類しましょう。

天文地理【月・木枯こがらし・氷しも・霜ゆきどけ・雪解しゆげ・春潮つゆ・梅雨さみだれ・五月雨しみず・清水・台風・霧・雷】

人事【雛祭ひなまつり・更衣ころもがえ・花火・噴水・七夕たなばた・盆・月見・吹流し・餅・風邪・咳・入学】

動物【鶯うぐいす・啄木鳥きつつき・うさぎ・白鳥しらとり・蜻蛉とんぼ・秋刀魚さんま・金魚・蝶・蜂かり・雁・ひぐらし・千鳥】

植物【花・牡丹ぼたん・藤・落葉みかん・蜜柑・大根・朝顔・紫陽花あじさい・たんぽぽ・ひまわり・菊】

春 ()

夏 ()

秋 ()

冬 ()

[詩・短歌・俳句シリーズ]俳句に親しむ②

年 組 氏名

次の季語を季節に分けて分類しましょう。

天文地理【月・木枯・氷・霜・雪解・春潮・梅雨・五月雨・清水・台風・霧・雷】

人事【雑祭・更衣・花火・噴水・七夕・盆・月見・吹流し・餅・風邪・咳・入学】

動物【鶯・啄木鳥・うさぎ・白鳥・蜻蛉・秋刀魚・金魚・蝶・蜂・雁・ひぐらし・千鳥】

植物【花・牡丹・藤・落葉・蜜柑・大根・朝顔・紫陽花・たんぽぽ・ひまわり・菊】

春 (雪解・春潮・雑祭・入学・鶯・蝶・蜂・花・藤・たんぽぽ)

夏 (梅雨・五月雨・清水・雷・更衣・花火・噴水・吹流し・金魚・牡丹・紫陽花・ひまわり)

秋 (月・台風・霧・七夕・盆・月見・蜻蛉・秋刀魚・雁・ひぐらし・啄木鳥・朝顔・菊)

冬 (木枯・氷・霜・餅・風邪・咳・うさぎ・白鳥・千鳥・蜜柑・大根・落葉)

学習するみなさんへ：

俳句の季語は、このように自然の風物だけでなく、日常生活に関するものもあり、どの季節に属するかは、規定されています。

[詩・短歌・俳句シリーズ]俳句に親しむ③

年 組 氏名

今回は俳句の季語を分類して、俳句の世界の広さを感じてもらいました。

今回はわずか十七音の中にも、「感動の中心」とも言える句があることをつかみましょう。

「感動の中心」となる句の多くは、「切れ字」と呼ばれる語が使われています。

(主な切れ字:ぞ・かな・や・けり・ず・ぬ・らむ)

次の①～⑤の俳句の「感動の中心」となる句を抜き出さない。

①いくたびも雪の深さを尋ねけり 正岡子規 ()

②さまざまのことを思ひ出す桜かな 松尾芭蕉 ()

③春風や鬪志いだきて丘に立つ 高浜虚子 ()

④牡丹散りて打ちかさなりぬ二三片 与謝蕪村 ()

⑤金剛の露ひとつぶや石の上 川端茅舎 ()

[詩・短歌・俳句シリーズ] 俳句に親しむ③

年 組 氏名

次の①～⑤の俳句の「感動の中心」となる句を抜き出さない。

- ①いくたびも雪の深さを尋ねけり 正岡子規 (尋ねけり)
- ②さまざまのことを思ひ出す桜かな 松尾芭蕉 (桜かな)
- ③春風や鬪志いだきて丘に立つ 高浜虚子 (春風や)
- ④牡丹散りて打ちかさなりぬ二三片 与謝蕪村 (打ちかさなりぬ)
- ⑤金剛の露ひとつぶや石の上 川端茅舎 (露ひとつぶや)

学習するみなさんへ：

俳句の「切れ字」は、感動を表す技法としてよく使われています。みなさんも自分自身で俳句を作るときに、この切れ字を使ってみてはどうでしょう。

[詩・短歌・俳句シリーズ]俳句を作る①

年 組 氏名

俳句とは、五・七・五の三句十七音の定型詩です。また、俳句には季語(季節を示す語)を詠み込むというルールがあります。

今回は初めてですから、五・七・五の音数を意識して作りましょう。

「春夏秋冬」の各季節の俳句を作りましょう。

1初めに、それぞれの季節にふさわしい時間帯や時刻をイメージし、五音で表してみましょう。

〔例〕 春休み・夏の夜

() () () ()

2 1の言葉を使って、各季節のそれぞれの時間帯等の絵を描くように、七音・五音の言葉をつないでみましょう。

春:

夏:

秋:

冬:

[詩・短歌・俳句シリーズ]俳句を作る②

年 組 氏名

前回は初めてですから、五・七・五の音数を意識して作りましたが、今回は、直接的な季節の言葉を使わずに、季語を考えて俳句を作りましょう。

1 次の()にあてはまる季節をイメージする言葉を五音または、七音で書きましょう。

	【春】	【夏】	【秋】	【冬】
花の名前 ()	()	()	()	()
行 事 ()	()	()	()	()
食 べ 物 ()	()	()	()	()
風 物 ()	()	()	()	()

2 1の言葉を一つずつ選んで、各季節の俳句を一句作りましょう。

春:

夏:

秋:

冬:

(注)このシートには、解答・解説シートはありません。

[詩・短歌・俳句シリーズ]短歌に親しむ①

年 組 氏名

短歌とは、五・七・五・七・七の五句三十一音の定型詩のことです。

今回は初めてですから、各句の音数をしっかり数えてみましょう。

音数の多いものは「字余り」、音数の少ないものは「字足らず」といいます。

次の①～⑤の短歌で、音数が定型になっていない句を、抜き出さない。(一つとは限りません)

①^{かめ}瓶にさす藤の花房みじかければたたみの上にとどかざりけり
正岡子規（ ）

②のど赤き^{つばくらめ}玄鳥ふたつ^{はり}屋梁に^{たらちね}みて垂乳根の母は死にたまふなり
斎藤茂吉（ ）

③^{まんじゅしゃげ}曼珠沙華一むら燃えて^{あきび}秋陽つよしそこ過ぎて^{みち}ゐるしづかなる径
木下利玄（ ）

④^{ひきかた}久方のアメリカ人のはじめにし^あベースボールは見れど飽かぬかも
正岡子規（ ）

⑤^{いくやまかは}幾山河越えさり行かば寂しさの^は終てなむ国ぞ今日も旅ゆく
若山牧水（ ）

[詩・短歌・俳句シリーズ]短歌に親しむ①

年 組 氏名

次の①～⑤の短歌で、音数が定型になっていない句を、それぞれ抜き出さない。

①瓶にさす藤の花房みじかければたたみの上にとどかざりけり

正岡子規 (みじかければ)

②のど赤き玄鳥つばくらめふたつ屋梁はりにゐて垂乳根たらちねの母は死にたまふなり

斎藤茂吉 (玄鳥ふたつ・垂乳根の母は)

③曼珠沙華まんじゅしゃげ一むら燃えて秋陽あきびつよしそこ過ぎてゐるしづかなる径みち

木下利玄 (秋陽つよし)

④久方ひさかたのアメリカ人のはじめにしベースボールは見れど飽あかぬかも

正岡子規 (見れど飽かぬかも)

⑤幾山河いくやまかは越えさり行かば寂しさの終はてなむ国ぞ今日も旅ゆく

若山牧水 (幾山河)

学習するみなさんへ：

短歌の音数は、字数とは異なります。音読しながら指折り数えると、わかりやすいです。

[詩・短歌・俳句シリーズ]短歌に親しむ②

年 組 氏名

前回は、短歌が定型詩であることを確認しました。

今回は、短歌によって表される季節をとらえましょう。

次の①～⑥の短歌の()にあてはまる季節(春・夏・秋・冬)を答えなさい。

①街をゆき子供の傍そばを通る時蜜柑みかんの香かせり()がまた来る
木下利玄 ()

②馬追虫うまおいの髭ひげのそよりに来る()はまなこを閉じて想ひみるべし
長塚節 ()

③いつしかに()の名残となりにけり昆布干場ほしぼのたんぽぽの花
北原白秋 ()

④いちはつの花咲きいでて我目わがめには今年ばかりの()行かんとす
正岡子規 ()

⑤()の土つちふかく曇れりふところに蝉せみを鳴かせて童子わらべ行きたり
中村憲吉 ()

⑥しらしらと氷かがやき

千鳥なく

釧路の海の()の月かな

石川啄木 ()

[詩・短歌・俳句シリーズ]短歌に親しむ②

年 組 氏名

次の①～⑥の短歌の()にあてはまる季節(春・夏・秋・冬)を答えなさい。

①街をゆき子供の傍そばを通る時蜜柑みかんの香かせり()がまた来る

木下利玄 (冬)

②馬追虫うまおいの髭ひげのそよろに来る()はまなこを閉じて想ひみるべし

長塚節 (秋)

③いつしかに()の名残となりほしぼにけり昆布干場のたんぽぽの花

北原白秋 (春)

④いちはつわがめの花咲きいでて我目には今年ばかりの()行かんとす

正岡子規 (春)

⑤()の土つちふかく曇れりふとせみころに蝉を鳴かせてわらべ童子行きたり

中村憲吉 (夏)

⑥しらしらと氷かがやき

千鳥なく

釧路の海の()の月かな

石川啄木 (冬)

学習するみなさんへ：

どの短歌にも、季節のヒントになる自然の風物が読み込まれています。

[詩・短歌・俳句シリーズ]短歌に親しむ③

年 組 氏名

前回は短歌の季節感をとらえました。

今回は短歌の情景をとらえてみましょう。

次の①～⑤の短歌の（ ）にあてはまるものを、あとから選んでみましょう。

①金色のちひさき鳥のかたちして（ ）散るなり夕日の岡に
与謝野晶子（ ）

②（ ）は金の油を身に浴びてゆらりと高し日のちひささよ
前田夕暮（ ）

③またしても啼^なきそこねたる（ ）を笑はんとして涙こぼれき
太田水穂（ ）

④くれなゐの二尺^{にしやく}伸びたる（ ）の芽の針やはらかに春雨の降る
正岡子規（ ）

⑤しんしんと（ ）ふりし夜にその指のあな冷たよと言ひて寄りしか
斎藤茂吉（ ）

ひまわり うぐいす ばら いちよう
【向日葵・鶯・雪・薔薇・銀杏】

[詩・短歌・俳句シリーズ]短歌に親しむ③

年 組 氏名

次の①～⑤の短歌の()にあてはまるものを、あとから選んでみましょう。

①金色のちひさき鳥のかたちして()散るなり夕日の岡に
与謝野晶子 (銀杏)

②()は金の油を身に浴びてゆらりと高し日のちひささよ
前田夕暮 (向日葵)

③またしても啼きそこねたる()を笑はんとして涙こぼれき
太田水穂 (鶯)

④くれなゐの二尺伸びたる()の芽の針やはらかに春雨の降る
正岡子規 (薔薇)

⑤しんしんと()ふりし夜にその指のあな冷たよと言ひて寄りしか
斎藤茂吉 (雪)

学習するみなさんへ：
情景をつかむには、()の前後の言葉に着目すると、
わかりやすいです。

[詩・短歌・俳句シリーズ]短歌に親しむ④

年 組 氏名

前回は短歌の情景をとらえました。

今回は短歌全体の意味をとらえて、切れ目を考えましょう。

次の①～⑤の短歌を、例にならって意味の切れ目に印を入れましょう。

【例】 白鳥は哀しからずや／空の青海のあをにも染まずただよふ

①海恋し 潮の遠鳴り かぞへては をとめ少女となりし ちちはは父母の家

与謝野晶子

②しなのじ信濃路は 　いつ春にならん 　夕づく日 　入りてしまらく 　黄なる空のいろ

島木赤彦

③ぼたんか牡丹花は 　咲き定まりて 　静かなり 　花のし占めたる 　位置のたしかさ

木下利玄

④ばれいしょ馬鈴薯の 　うす紫の花に降る

雨をおもへり

都の雨に

石川啄木

⑤うらうらと 　照れる光に 　けぶりあひて 　咲きしづもれる 　山桜花

若山牧水

[詩・短歌・俳句シリーズ]短歌に親しむ④

年 組 氏名

- ①海恋し／ 潮の遠鳴り かぞへては ^{をとめ}少女となりし ^{ちちはは}父母の家
与謝野晶子
- ②信濃路は いつ春にならん／ タづく日 入りてしまらく 黄なる空のいろ
島木赤彦
- ③^{ぼたんか}牡丹花は 咲き定まりて 静かなり／ 花の^し占めたる 位置のたしかさ
木下利玄
- ④^{ばれいしょ}馬鈴薯の うす紫の花に降る
雨をおもへり／
都の雨に
石川啄木
- ⑤うらうらと 照れる光に けぶりあひて 咲きしづもれる 山桜花／
若山牧水

学習するみなさんへ：

切れ目を見つけるには、「述語」にあたる言葉がどこにあるのかを見つけること。また、それぞれの句がどの言葉にかかっていくのかを、つかむことも大切です。

①初句切れ ②二句切れ ③三句切れ

④四句切れ ⑤句切れなし

[詩・短歌・俳句シリーズ]短歌を作る

年 組 氏名

短歌とは、五・七・五・七・七の五句三十一音の定型詩のことです。

今回は初めてですから、各句の音数をしっかり数えて作りましょう。

1 自然の風物(花・空・雨・太陽・風等)または自分の体験(学校行事、旅行、遊び、食べ物等)を取り上げ、描きたい情景や心情を整理しましょう。

- ・ ()の()。
何 どのような様子
- ・ ()のときの()。
何 どのような気持ち

2 1で考えた情景や心情をもとに、次の型にあてはめて短歌を作りましょう。

初めの五・七・五で「何の」の説明、七・七で「様子」の説明
(五・七と五・七・七に分けてもよい)

初めの五・七・五で「何の」の説明、七・七で「気持ち」の説明